

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月1日

配布数 7

回収数 7

事業所名 アートチャイルドケアSEDスクール札幌桑園

	チェック項目	割合(%)			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ	無回答		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100.0%	0.0%	0.0%		
	2 職員の配置数は適切である	85.7%	14.3%	0.0%	・基準は満たしているが、常勤・非常勤の人数配分から余裕のない時間帯では非常勤の勤務調整など支援に影響のないように工夫しています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100.0%	0.0%	0.0%		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100.0%	0.0%	0.0%	・利用児に合わせた設定や場所を提供しています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100.0%	0.0%	0.0%		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%	・昨年度のアンケートにより、保護者様ご要望を受けてセッション開始時刻を変更し、利用しやすくしています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	85.7%	14.3%	0.0%		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%	0.0%	0.0%		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	0.0%		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100.0%	0.0%	0.0%	・新版K式発達検査を使用し、アセスメントに役立っています。	
	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%	0.0%	0.0%		
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100.0%	0.0%	0.0%		
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	100.0%	0.0%	0.0%	・特にグループ活動のプログラムの立案をチームで行っています。	
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%	0.0%	0.0%	・プログラム立案時に必ず以前のものをチェックしています。	
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	0.0%		
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%	0.0%	0.0%	・運動プログラムは必ず打ち合わせをしています。 ・その都度、子どもに合わせて机上での活動の場所や手助けが必要な場面を事前に打ち合わせて支援を開始しています。	
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%	0.0%	0.0%	・休みの職員は、次回出勤時に所定の場所に置いてあるプログラムで活動の様子を確認しています。	
18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%	・カンファレンス時に記録しています。		
19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100.0%	0.0%	0.0%			
関係機関や保護者と	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	71.4%	28.6%	0.0%	・業務調整をして現在はスクール長のみが参加しています。	日々の支援の提供を最優先にしながらも、配置の状況に応じて実際に療育に入っている指導員も参加できるように検討していきます。
	21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	57.1%	28.6%	14.3%	・療育を優先している中で巡回相談や利用児が登園している幼稚園、保育園への見学があまりできていないが、調整をして連携できるように取り組んでいます。	
	22 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	71.4%	28.6%	0.0%	・直接話し合う機会の設定は出来ませんが、書面での情報共有をしています。	小学校、児童デイへの移行支援は実施している事例もあります。連携機関とも協議しながら、支援計画等で情報共有に力を入れていきたいと思っています。
	23 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14.3%	85.7%	0.0%	・現時点では出来ていないため、今後していくように工夫したい。	

との連携	24	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	85.7%	14.3%	0.0%		
	25	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	42.9%	57.1%	0.0%		
	26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%	0.0%	0.0%		
保護者への説明責任等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	85.7%	0.0%	14.3%		
	28	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	85.7%	0.0%	14.3%	・説明はスクール長が実施し、同意を得ております。	
	29	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%	0.0%	0.0%		
	30	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100.0%	0.0%	0.0%		
	31	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100.0%	0.0%	0.0%		
	32	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%	0.0%	0.0%		
	33	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%	0.0%	0.0%		
非常時等の対応	34	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	85.7%	0.0%	14.3%	・必要なマニュアルは整備されています。	
	35	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%	0.0%	0.0%		
	36	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100.0%	0.0%	0.0%		
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100.0%	0.0%	0.0%	・事例発生後即日作成し、共有しています。	
	38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	71.4%	28.6%	0.0%	・直接的な研修は受けていないが、研修を受けた職員から話を聞くことはしています。	毎年スクール内研修を行い職員全員で対応できるようにしていきます。